

統合管理ソフトウェア「NIAS」によって、顧客情報を適切に管理するという社内ポリシーをより確実に実践する手段を獲得

東洋証券株式会社 様



お客様プロフィール



社名：東洋証券株式会社
 本社所在地：東京都中央区八丁堀4-7-1
 創業：1916年12月
 設立：1934年4月
 資本金：134億9,468万7500円
 従業員数：729名(2022年3月31日現在)
 事業概要：金融商品取引業(日本株、外国株、投資信託、債券など、証券全般のサービスを提供)
 URL：<https://www.toyo-sec.co.jp/>



東洋証券株式会社
 システム統括部 システム管理課 課長
永野 陽太 氏



SCSK株式会社
 ITエンジニアリング事業本部
 サーバ&ストレージ部 営業第二課
筒井 真哉



SCSK株式会社
 ITエンジニアリング事業本部
 サーバ&ストレージ部 技術第二課
北野 充晴



SCSK株式会社
 金融営業・ソリューション本部
 金融営業第五部 第二課
石松 正一郎



SCSK株式会社
 金融営業・ソリューション本部
 金融営業第五部 第一課
金田 愛美

事例のポイント

課題背景

- お客様の個人情報に関するデータの運用管理ルールが統一されておらず、ファイルサーバの中に個人情報が点在していた
- 業務拡大に伴い、ファイルサーバの容量が肥大化していた

成果

- 個人情報の隔離・削除をスムーズに実施
 NIASの個人情報検出(オプション)機能を用いて、個人情報が含まれるファイルを優先的に検出し、データの隔離・削除を円滑に実施。悪用や漏えいのリスクを最小化できた
- 不要ファイルを整理し、30%の容量を削減
 NIASを用いたファイルサーバ利用状況の解析結果を基に、不要ファイルを整理・削除。長期間の未使用ファイルなどを手作業で探して消去する煩雑な運用も不要になった

導入ソリューション ファイルサーバ統合管理ソフトウェア NIAS (NEC Information Assessment System)

導入前の背景や課題

個人情報が含まれるファイルの隔離・削除とデータの肥大化対策が、喫緊の課題

東洋証券様は、100年超の歴史を持つ広島発祥の証券会社です。1990年代に中国株の取り扱いをいち早く開始したことから、業界では中国株取引のパイオニアとして知られています。2020年には、幅広い顧客から資産運用&形成のアドバイザーとして選ばれる「スーパー・リージョナル(地域密着型)・リテール証券会社」を、目指すべき将来像として打ち出しています。

近年、同社はファイルサーバの運用管理にあたって、二つの課題を抱えていました。その一つは、個人情報

に関する運用管理のルールが全社で統一されていなかったことです。「お客さまの氏名・住所・電話番号などのデータがファイルサーバ内部に点在しており、個人情報を適切に管理するという当社のポリシーを、より確実に実践するための手段が必要でした。そこでまず、個人情報ファイルの検出ツールを導入して個人情報の隔離を行ったうえで、台帳を作成する計画を立てていました」(システム統括部 システム管理課 課長 永野陽太氏)

もう一つの課題は、業務拡大に伴うデータの肥大化です。「自社で構築してきたファイルサーバには、過去15年分ほどのファイルが累積し、容量がひっ迫していました。そこで、不要なファイルを整理して容量不足を

解消することも、喫緊のテーマになっていたのです。永野氏は2019年ごろの状況を、このように説明します。

選択のポイント

課題を解決できる機能、ユーザ目線のアーキテクチャなどを総合的に評価

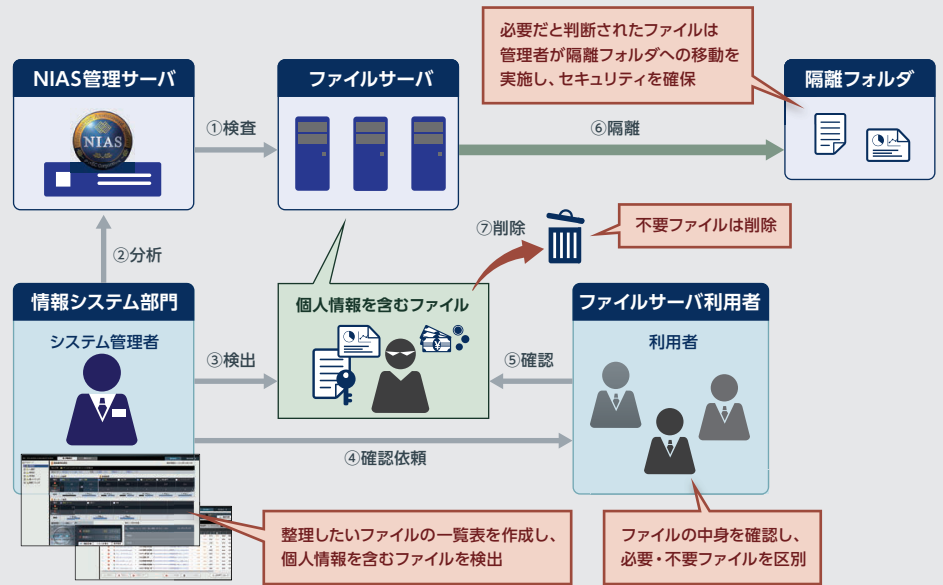
2020年1月、数社の個人情報検出ツール、およびファイルサーバ統合管理ソフトウェアを比較検討した永野氏は、NECのNIASを選択しています。その決め手になった要素を、永野氏は次のように話します。「オプションで用意されている個人情報検出の機能を付加することで、当社の抱えていた二つの課題を一つのツールで解決できてしまうというファクトが、シンプルでわかりやすかったのです。加えて、ユーザ目線で製品が設計されており、たいへん使いやすいことも決め手となりました。例えば、あるファイル群の削除を実行する前に、ユーザ部門にあらかじめ一覧表を提示し確認する手順を踏むのですが、表の中に残す必要のあるファイルがあれば、ユーザ自身で選択ができます。このような機能は、他社製品には見られないものです」

戦略的ITパートナーとして、東洋証券様の課題解決をサポートしたSCSKも、NIASを高く評価します。「NIASの個人情報検出機能は他社の製品と比較して、機密レベルの設定方法や特定文字列での抽出などの面で柔軟性が高く、画面も見やすいという優位性があります。もちろん容量削減の機能も優れており、製品の付加価値を高めています。東洋証券様からご指定いただいた製品であると同時に、弊社からも推奨し、既存のファイルサーバへの適用をご支援しました」(SCSK株式会社 ITエンジニアリング事業本部 サーバ&ストレージ部 筒井 真哉)。
またSCSKは、社内でNIASを導入しているユーザでもあります。「私たちの経験に基づいたNIASの活用ノウハウを東洋証券様にも提供しながら、一連の導入プロセスをサポートしています」と、同社の北野充晴は補足します。

導入後の成果

個人情報の隔離・削除をスムーズに実施。不要ファイルの整理が進み、30%の容量を削減

ファイルサーバ統合管理ソフトウェア NIAS システム構成イメージ



東洋証券様では2020年4月より、20の社内組織で約300人のユーザがNIASを利用しています。「まず個人情報検出機能を用いて、ファイルサーバから個人情報を優先的に検出し、一覧リストを作成しています。このリストを社内ユーザにも提示したうえで、不要なファイルの隔離・削除をスムーズに実施しました」と永野氏は振り返ります。また、副次的な効果として、個人情報の範囲や適切な管理に関するポジティブな質問がユーザ部門から寄せられるようになり、「社員の意識は明らかに高まっています」と永野氏は話します。

2020年10月からは、NIASを用いたファイルサーバ利用状況の解析結果を基に、不要ファイルの整理・削除に着手しています。「不要なファイルをアーカイブ領域に移行したことで、通常業務で使用するフォルダでは30%の容量削減効果が得られています。以前は、ファイルサーバの容量が限界に近づく局面がたびたびあり、私を含む統括部の社員が週に一度の頻度で、長期間の未使用ファイルなどを手作業で探し消去していました。NIASの導入によって、この煩雑な運用が不要になっています」(永野氏) SCSKの石松 正一郎は「2020年のコロナ禍を境に

リモートワークのスタイルが急速に普及しました。この状況を踏まえ、企業は今、ファイルサーバのセキュリティ対策を多面的に検討し、実行に移すべき時ではないでしょうか」と強調します。SCSKの金田愛美も「ファイルサーバを含む情報セキュリティ対策を計画されている企業様に、NIASなどの製品を組み合わせた複合的な防御と管理のしくみを提案していく考えです」と話します。

なお、東洋証券様は今後、ファイルサーバへのアクセス権付与状況の不一致・不正を洗い出せるNIASの機能も活用し、アクセス権の棚卸・修正を定期的実施するなど、データガバナンスの強化を図っていく考えです。



記載内容は取材時現在の情報です。

製品開発元

日本電気株式会社 〒108-8001 東京都港区芝五丁目7-1 (NEC本社ビル)

製品および記載内容に関するお問い合わせ

SCSK SCSK株式会社

<https://www.scsk.jp/>

ITインフラ・ソフトウェア事業本部 サーバ・ストレージ部

〒135-8110 東京都江東区豊洲3-2-20 豊洲フロント

E-mail: nec-sales@scsk.jp

製品情報 https://www.scsk.jp/sp/nec_nias/



NIAS情報はこちら

●記載の社名、製品名は各社の商標または登録商標です。●記載製品の輸出(非居住者への役員提供等を含む)に際しては、外国為替及び外国貿易法等、関連する輸出管理法令等をご確認の上、必要な手続きをお取りください。ご不明な場合、または輸出許可等申請手続きにあたり資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの弊社営業拠点にご相談ください。●改良のため予告なく製品仕様を変更することがあります。●記載内容は2023年4月1日現在のものです。